

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.8
Q1 室内環境			0.40					3.8
1 音環境		3.7	0.15	-	-			3.7
1.1 騒音	目標レベル45dB(A)とした	4.0	0.40	-	-			
1.2 遮音		3.8	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能	Dr-50相当(押出成型セメント板t60+空気層150+PBt9+9))	5.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		3.7	0.35	-	-			3.7
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.38	3.0	-			
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-			
3 ゾーン別制御性	同一フロアで複数のゾーニングを行い、ゾーン別に冷暖を選択できる。	4.0	0.38	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式	床吹き出し方式の採用	5.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		4.3	0.25	-	-			4.3
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-			
1 昼光率	昼光率=2.47%	5.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-			
1 昼光制御	庇とブラインドの組み合わせで、グレアを制御	4.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度	一般事務室: 全般照明で750lx	4.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御	事務室に無線調光システムを採用し、器具1台ごとに制御・調光が可能。	5.0	0.25	3.0	-			
4 空気質環境		3.6	0.25	-	-			3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	4.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.3	0.30	-	-			
1 換気量	建築基準法を満たす換気量の1.2倍の換気量を確保している。	4.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-			
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.6
1 機能性		4.1	0.40	-	-			4.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.6	0.40	-	-			
1 広さ・収納性	一人当たりの執務スペースを10㎡確保	4.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応	事務室はOAフロアで電源容量40VA/㎡以上としている。	4.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.3	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	主となる2F事務室はCH=3150、研究室CH=3200程度とする。	5.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース	執務スペースの17.1%を確保し、自動販売機をパントリーに設置。	5.0	0.33	-	-			
3 内装計画		3.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	風除室の1,2次扉が同時に開かない様に2.5mの距離を確保、外部に露出する金属部材は溶融亜鉛メッキ及びSUS製とし、精密作業を行う研究室は防汚性、耐薬品性に優れた塗床材とする。	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	707毎にSKを設置、建物の延べ面積に対し0.46%のゴミ置場を設置	4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-			3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	ガルバリウムダクトを使用している。	5.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水VLP(B)、冷温水SGP(D)、冷媒管CUP(C)	4.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	配管類を吊配管とし、空調類は重要度に応じ系統区分している。	3.6	0.20	-	-	-
	2	給排水・衛生設備		5.0	0.20	-	-	-
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	-
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
	5	通信・情報設備	災害時にPCにより災害情報が入手できる。浸水の危険性はない。	4.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6	
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	-	
1	1	階高のゆとり	階高4.0m以上	5.0	0.60	3.0	-	-
2	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.142	4.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	-	
1	1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	-	
2	2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	-	
3	3	電気配線の更新性	ビット内幹線ラック、縦ケーブルラック、OAフロア内で配線する。	5.0	0.10	-	-	-
4	4	通信配線の更新性	ビット内幹線ラック、縦ケーブルラック、OAフロア内で配線する。	5.0	0.10	-	-	-
5	5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	-	
6	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.9	
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮			建物高さ10m以下。壁面をセットバックさせ、十分な緑地帯を設ける。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			敷地東側に歩道状空を確保。外周をメッシュフェンスとし、防犯性を配慮	4.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.693	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			開閉窓の設置により、自然通風を有効利用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 0.94 住宅(専有部) 0.83	3.5	0.50	-	-	3.5
集合住宅以外の評価(3a.3b)			BEI=0.95、LED照明設備を採用	3.5	1.00	-	-	-
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	-	
4.1	4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	-	
4.1	4.1	モニタリング	3.0	-	-	-	-	
4.2	4.2	運用管理体制	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3	
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1 節水			自動水栓に加えて節水型便器を使用している。	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-	
1	1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	-	
2	2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5	
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			ハンディウッド(外装)、タイルカーペット(床)、ビニル床材(床)	5.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			躯体+鉄骨+仕上げ材のディテールを採用する。	4.0	0.20	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	-	
1	1	消火剤	-	-	-	-	-	
2	2	発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	-	
3	3	冷媒	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5	
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出量=96%	3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮			4.2	0.33	-	-	4.2	
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			見付面積比:50.4%、隣棟間隔Rw=2.89、地表面対策面積率58.48%	4.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	-	
1	1	雨水排水負荷低減	市の指導を満たし、かつ雨水浸透貯留槽は必要量145.280m3に対し、貯水量167.169m3とした	4.0	0.25	-	-	-
2	2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-	
3	3	交通負荷抑制	駐輪場、駐車場及び荷捌き用車両の駐車施設を確保し、車両出入り口位置は交差点を避けて計画した	5.0	0.25	-	-	-
4	4	廃棄物処理負荷抑制	多種分別回収が可能なストックスペースを十分に設ける。	4.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-	
1	1	騒音	3.0	1.00	-	-	-	
2	2	振動	-	-	-	-	-	
3	3	悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-	
1	1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-	-	
2	2	砂塵の抑制	3.0	-	-	-	-	
3	3	日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	-	
1	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外照明は近隣住宅への漏れ光対策として足元灯または下方配光の器具を採用している。また、広告物照明は行っていない。	5.0	0.70	-	-	-
2	2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	-	